

私は7年前、悪性黒色腫という皮膚がんになりました。部位は手のひらで最初は傷があった所にできたのと、当時は元気で仕事をしていましたので、悪性と聞いたときはとてもがんだとは受け入れられないような気持ちでした。手術治療後もすぐに仕事に復帰しました。それから2年近くたった頃に左腕にしこりが見つかり、検査の結果転移だとわかった時はとてもショックでした。

また入院して手術を受けました。抗がん剤治療までに時間があつたので、免疫療法の研究が進んでいる〇〇大学を、先生に紹介していただきセカンドオピニオンを聞きに行きました。そこでは進行が早い病気の割にはリンパ節への転移もなく、この段階では免疫療法は必要ないのではということでした。

それから車で山梨の大学に通っている息子に会いにいきました。息子と夕食を共にして、すぐに宿舎の富士桜荘に向かいました。真っ暗な山道をカーナビを頼りにようやくたどり着く事ができ、その日はすぐに休みました。翌朝部屋のカーテンを開けると真っ白な雪をかぶった富士山の雄大な姿が目目のすぐ前にありました。私は感激のあまり病気が何処かへ飛んでいったような気持ちになりました。真っ暗な闇の中から突然光が射して来たようなそんな瞬間でした。余りにも美しかったので神奈川に居る姉に連絡し、もう一泊して一緒に富士山を見上げながら河口湖を一周して帰ってきました。

その後抗がん剤治療を終え、現在は2ヶ月に1回のペースで通院して、毎年ペットCTでチェックしています。今は放送大学や習字、英会話、そしてパッチワークと毎日を楽しんでいます。ここまで来れたのも、主治医の先生をはじめ、周りの人々の大きな支えがあったからだと感謝しています。心配をする時もありますが、気持ちを切り替えながら前向きに進んで行く事を心がけています。



伊吹山